

四條畷市教育委員会ニュース

「2050年(平成62年)の夢づくり」



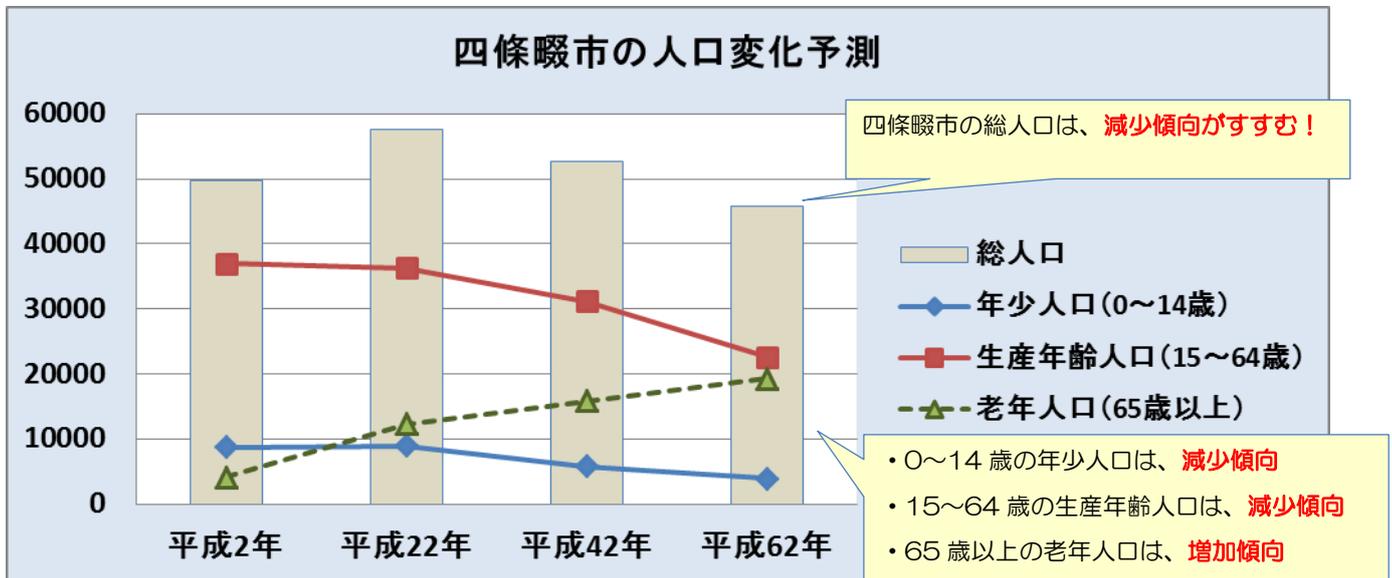
2050年(平成62年)夢づくり会議に中学生が参加

今、市の次期総合計画策定に向け、その大要づくりとして2050年(平成62年)の四條畷の姿をみすえ、市民参加の「夢や希望を語る会議」が計画されています。その中で、2050年に50歳を迎える現中学校2年生が、将来のまちづくりの夢を語り合うワークショップ「夢づくり会議子ども部会」に出席しました。

この会議は夏休み中の8月11・19日の2日間にわたって開催されました。

8月11日は、ワークショップ「あなたの願うまちの姿について語り合いましょう」が開かれ、はじめに、四條畷市の今後予想されます町のようにについて説明を受けました。

「2050年(平成62年)の人口はどうなる?」「そのためどんなことが予測されるかな?」



(参考: 地域計画建築研究所)

人口予測グラフから「四條畷市の総人口が減少。平成22年を1.00とすると、平成42年0.92 平成62年0.80」となります。年齢別でみると、「64歳以下の人口が年々減少し、65歳以上の人口が増え、**人口減少・高齢化社会**がすすんでいきます。

そのため①高齢者1人当たりを平成22年では約3人で、平成42年では約2人で、平成62年には約1人で支えていくこととなります(生産年齢人口比)。また、②空き家の増加、③買い物弱者・買い物難民^{※1}の増加、④市の税収の減少、⑤巨大災害(南海トラフ地震など)の危惧、⑥インフラ(道路橋、トンネル、河川管理施設、下水道等)の老朽化対策費などの増加なども考えなければなりません。

国内規模では⑦新しい幹線鉄道のネットワーク化 リニア中央新幹線開業(東京~名古屋~大阪) 整備新幹線(北海道 北陸九州) ⑧地球環境問題対策(二酸化炭素排出量増加による気候変動)から地域特性を生かした低炭素なまちづくり⑨情報機器の普及なども計画されています。

これらの予想される四條畷市の姿をもとに、子どもたちは二つのグループに分かれ意見を出し合いました。

※1 買い物弱者・買い物難民: 住んでいる地域で日常の買い物をしたり、生活に必要なサービスを受けたりするのに困難を感じる人たちのことです。高齢の方を中心に、全国で約600万人いると推計されています。

~なぜそうってしまったの?~高齢化や人口減少などの影響で、身近な場所から買い物をするための店が撤退する地区が増えています。そのうえ、高齢のために自動車が運転できない等の理由で遠くの街まで出かけることが困難を感じる人々が多くなっています。

(参考: 経済産業省 平成23年5月30日 買い物弱者応援マニュアルVer. 2.0)

ワークショップ1 「わたしの夢」 将来、こんな仕事、こんなことをしてみたいな

水泳の先生になりたい バレーボール選手になりたい 野球選手 卓球選手
看護師になりたい 結婚してたくさんの家族をもちたい 良い母親になりたい 助産師 医者
父の仕事を受け継ぎたい 父の仕事（農業）を受け継ぎたい
システムエンジニア（プログラマー） デザイナー（パソコンのインストラクター）
切り絵作家 はんこ作家 絵本作家 イラストレーター 絵（風景）を描きながら旅 声優
世界中を旅行（フランス スイス…） 写真家（外国） 海外でボランティア
自然の中で生活 植物を育て緑豊かに

名刺交換で友だちに！

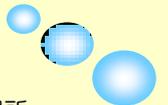


はじめは緊張したけど、すぐに打ち解けあって、意見をまとめ発表。たくさんの夢がふくらんでいきました。50歳になっても会えるといいね！

ワークショップ2 「未来のまちのイメージ」 そのため、こんな町がほしい！ こんなものがあるといいな

カッターやデザインナイフの専門店が少ないのであったらうれしい

市で趣味ごとに集まるクラブみたいなのがあってほしい 買い物ができるところがたくさんある町がいい
自然が一番いいところ みんなが住みやすい町 きれいな町並み（ポイ捨てがない） 大きい滝 遊園地がある町
飛行場 自然な場所 食生活 運動ができる場所 本来の自然を残した町 木を間伐し遊歩道に
世界の人々と美術の交流がしたい（美術館などで） 他の地域との交流を深める
良い病院 病院が多い町 働ける大きな病院 手術の勉強をする学校 大きな図書館
家族で助け合える 情報網の発達 犯罪のない町 市民で花を育てる町 地元の野菜を販売する場所
専門のバレーボールチーム スポーツ施設の充実 スポーツを盛んにする ドーム型球場 イベントが多い いろんな公共施設
美術などの専門学校がある 今、活動を行っている人の話が聞ける様な場所がある コンサート会場（避難場所兼ねる）
歩道を広く 田原と四條畷をつなぐ電車 空港まで短時間でいける道路 自然にやさしい燃料で走る車 東京に通える交通
避難訓練で安全・防災の町 エネルギーをつくる町 人口が増える町 近所でつながりを深め助け合う
心が落ち着く昔ながらの町並みや狭い路地 昔から有名人が多い町 地域の伝統行事 岡部川と沈む夕日のきれいな町
最後は住み慣れた四條畷に戻ってきたい

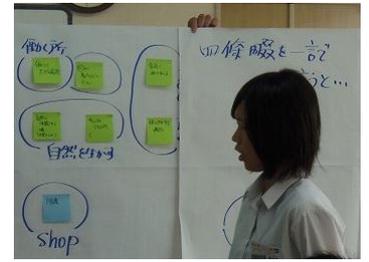
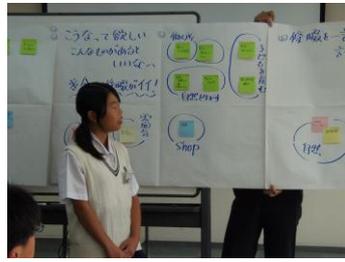


グループには、市職員の皆さんも参加され、子どもたちからの質問や意見について、アドバイスをしていただきました



ワークショップ3 「未来のまちのイメージ」 こんな町！ 一言キャッチフレーズにまとめよう

山も町もきれいなところ 空気も食べ物もおいしい町 自然が豊かで便利な町 農地などの自然の多い町
山などの自然が多い町 自然体験ができる町（木登りとか） 街路樹が多い町
自然が輝く町 自然の原形をとどめる町 地球にやさしい町
便利で自然と歴史にあふれた町 神社に歴史がある 歴史のものが町中にある（一つの風景になっている） 伝統と歴史の町
車などの排気ガス量ができるだけ少ない町 2050年になっても今のままできれいな町
情報と自然があふれる町 スポーツが盛んな町 にぎやかで平和なまち あいさつの飛び交う町
自分のまちのことにたくさん知れる町 町のみんなが親切でルールを守れる町
分野間の交流の場がある町 交通などが便利な町 自然もあるけど店もたくさんある町
いろんな国の人が集まる町 お年寄りでも楽しく住める町 みんなが仲良く住める町
思ったことが実現する町 若い人と年寄りの人が仲良くしていける町 子育てがしやすい公園等がある町
自習スペースが多い図書館の町 住めば楽しい町 団結できる町
幸せ運ぶ町 落ち着く町 やっぱり四條畷が住みやすいと思える町
YUMEの町（Yummyおいしい食べ物 Use地産地消 Manyたくさんの人 Enjoy楽しむ）



ワークショップで出した自分の考えをストーリーにまとめ、みんなの前で発表しました。夢のある町がいっぱい！！

ワークショップ4 「2050年 四條畷のまち」 市長さん 教育長さんと一緒に、みんなで夢の確認をしました！



藤岡 巧一教育長



土井 一憲市長



8月19日集合写真

子どもたちの夢が四つにまとめられました
第1の夢「自然の中で心地よく暮らせるまち」
第2の夢「あいさつが飛び交うまち」
第3の夢「毎日が笑顔あふれるまち」
第4の夢「一人ひとりの夢が実現するまち」

この四つの夢をもとに、市長さん、教育長さんと意見交流が行われました。子どもたちからは、地域で行っているクリーン作戦をもっと市民にアピールして、みんながごみのない町づくりに努める等提言。市長さんからは、早朝の飯盛山ウォーキング時に毎回ゴミ拾いをされていることや、市民から多くの夢を託され、教育長とともに市政に、教育に、反映されていることも紹介していただきました。

「郷土に誇りを持ち、主体的に学び行動する生徒に」

今回の2日間にわたるワークショップに参加した生徒たちは、今住んでいる四條畷市について、これほど深く考えたことはなかったことでしょう。夢見たことが、一つでも実現し、住んでよかった町「四條畷」にするためには、他人に委ねるのではなく、まちづくりの主人公となって仲間とともに努力することが大切です。

そして、豊かな自然と歴史に抱かれ、人々のつながりを大切にしながら、よりよい社会づくりに主体的に取り組む市民に成長することを願っています。

